

第2節 水質の現状把握

1. 瀬田川の水質の現状
2. 水質事故

1. 瀬田川の水質の現状

1.1 瀬田川の水質の現状

【瀬田川の水質区分】

瀬田川（唐橋流心）

類型	A
pH	6.5～8.5
BOD	2mg/l以下
SS	25mg/l以下
DO	7.5以上
大腸菌	1000MPN/100ml以下



水域の範囲	類型値	達成期間	指定年月日	備考
瀬田川	A	イ	昭和47年4月6日	環境庁

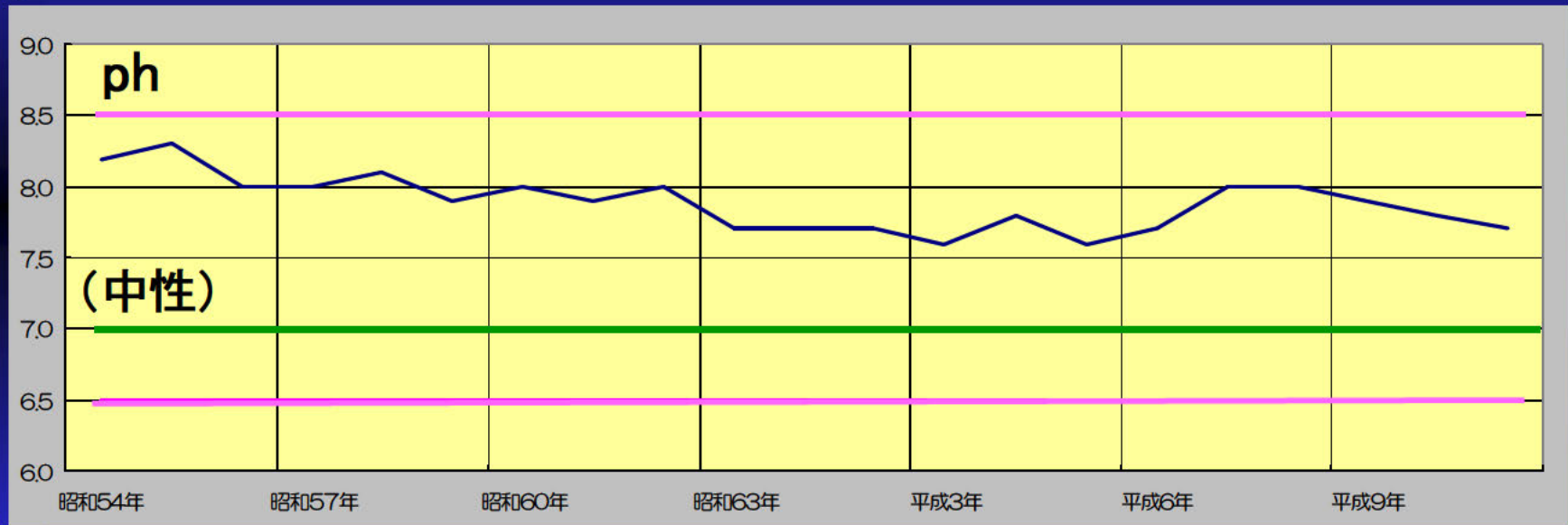
1.1 瀬田川の水質の現状

【ph(生活環境項目)】

(アルカリ性)

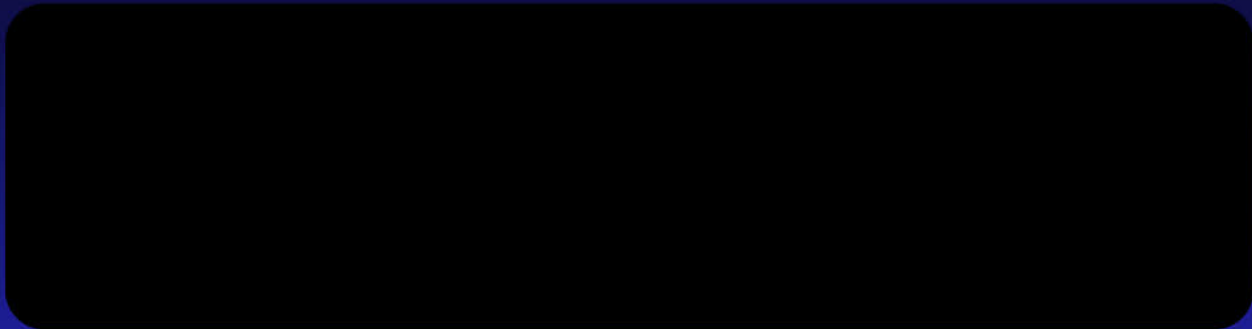


(酸性)

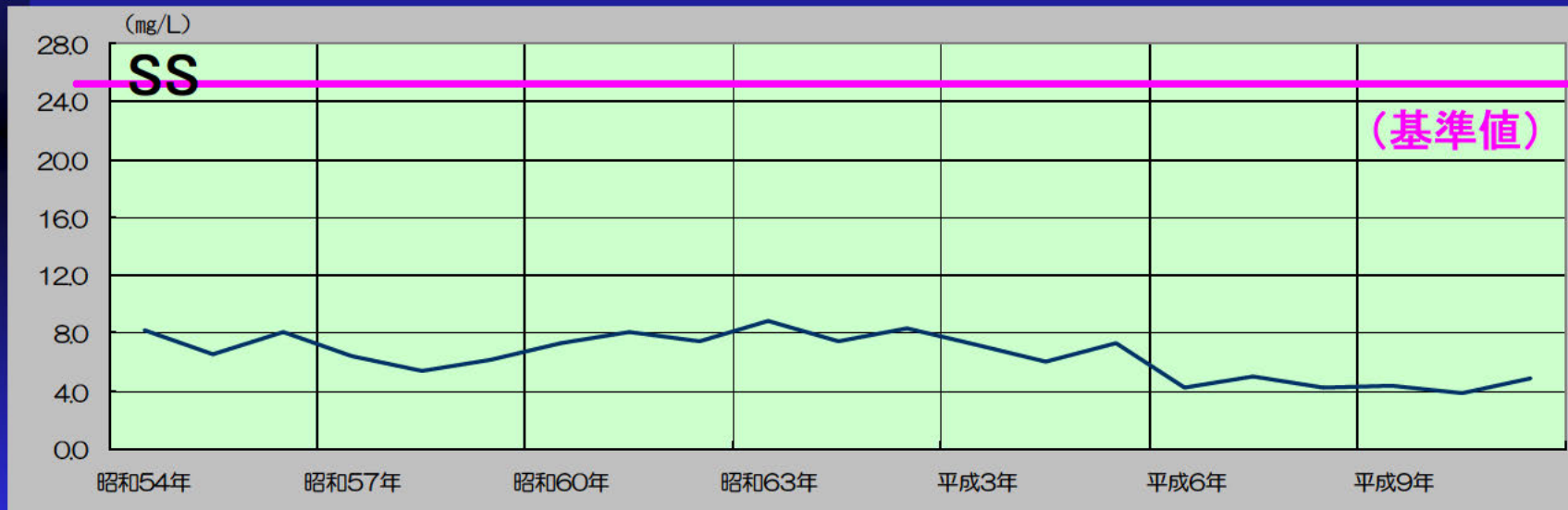


瀬田川の水質は、基準値を満足しています。

1.1 瀬田川の水質の現状 【SS(生活環境項目)】

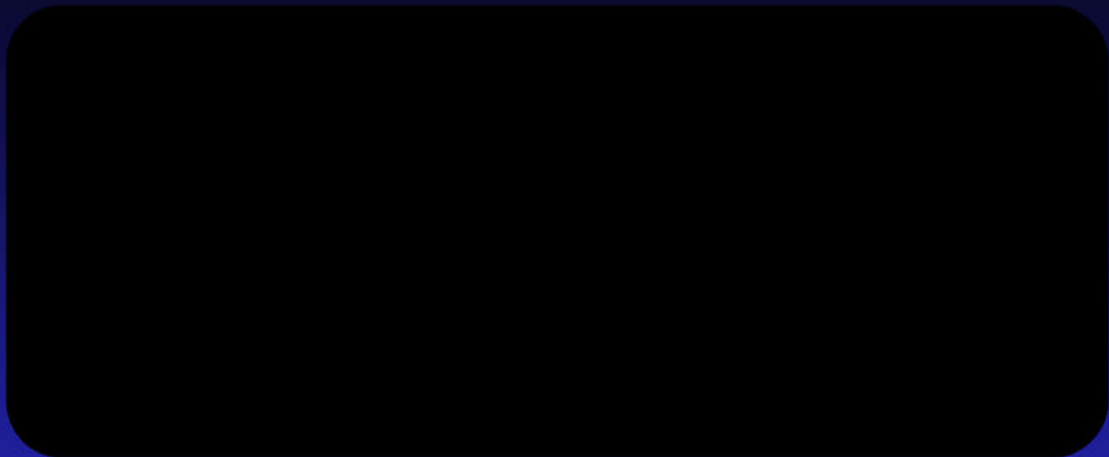


(良好)

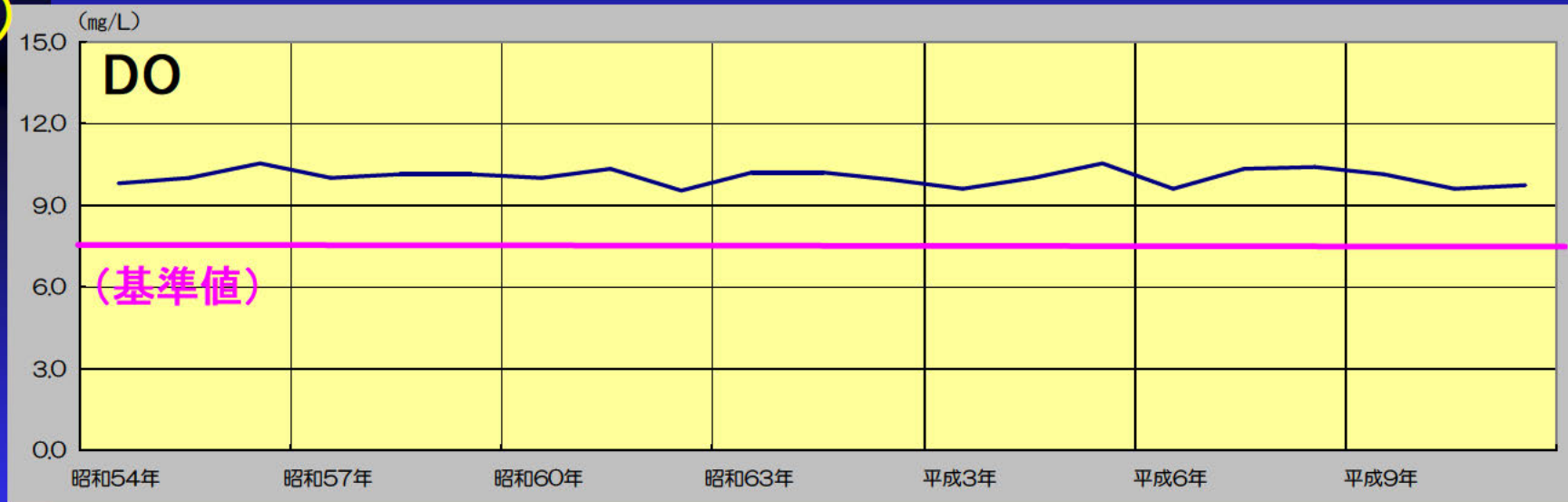


瀬田川の水質は、基準値を満足しています。

1.1 瀬田川の水質の現状 【DO(生活環境項目)】



(良好)

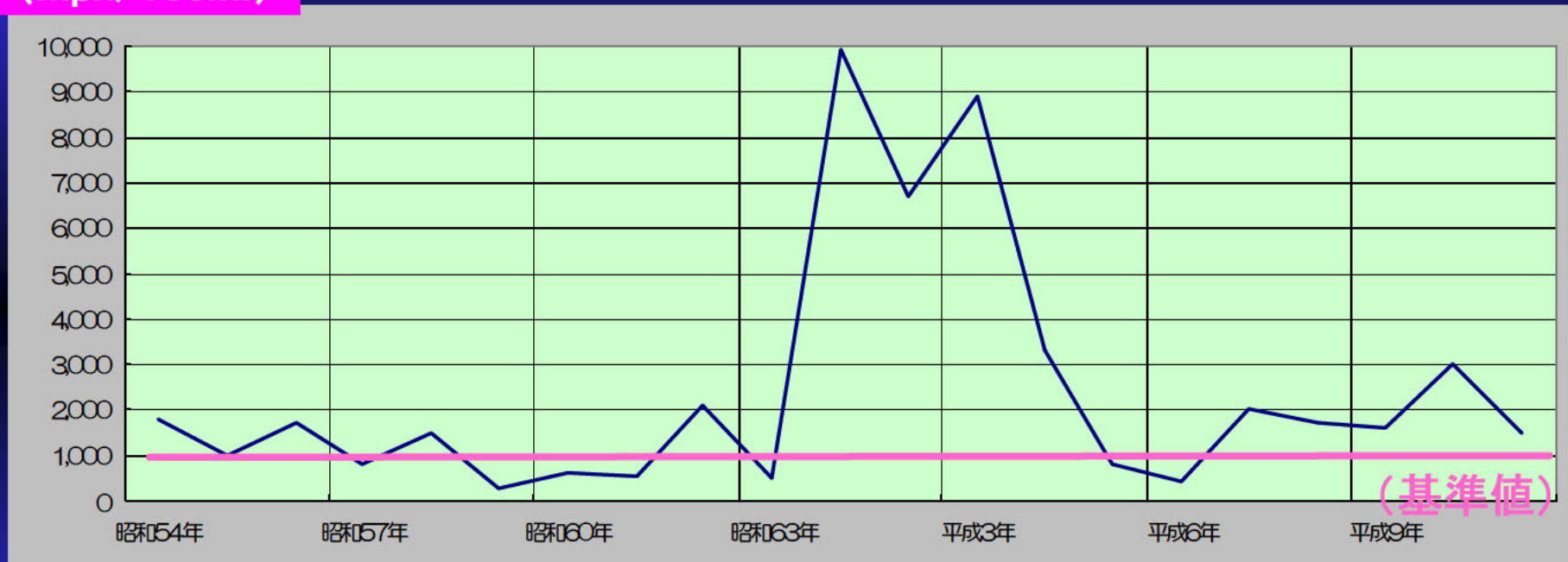


瀬田川の水質は基準値を満足しています。

1.1 瀬田川の水質の現状

【瀬田川の大腸菌(生活環境項目)】

(Mpn/100ml)



年毎に大腸菌の数は大きく異なっており、安定した基準値達成状況には至っていません。

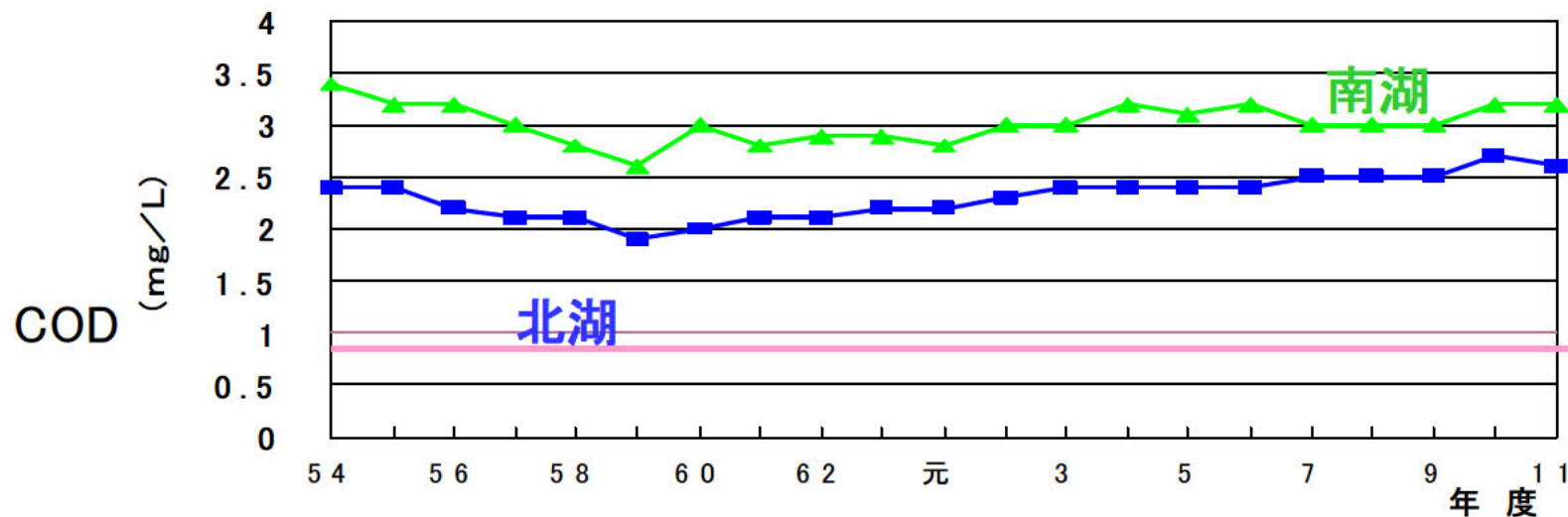
1.1 瀬田川の水質の現状

【琵琶湖の水質(COD)】

近年においても琵琶湖は環境基準を達成できていません。

CODとは…

水中の有機物等を酸化剤で酸化する際に消費される酸化剤を酸素量に換算したもので、BODとともに有機汚染の指標に用いられています。人為的汚染がない湖沼は概ね1mg/l以下と言われていています。BODが河川に用いられるのに対し、CODは湖沼や海域で用いられます。



1.2 瀬田川における環境ホルモン物質

水系名	河川名	調査地点名	採水日				採水時刻における流量 (m ³ S)				オクチルフェノール											
											4-n-オクチルフェノール				4-tert-オクチルフェノール				ノニルフェノール			
			H10前	H10後	H11夏	H11秋	H10前	H10後	H11夏	H11秋	H10前	H10後	H11夏	H11秋	H10前	H10後	H11夏	H11秋				
										検出下限値→	[0.1]	[0.03]	[0.01]	[0.01]	[0.1]	[0.03]	[0.01]	[0.01]	[0.1]	[0.03]	[0.1]	[0.1]
										ランク値の範囲→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
											↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
											0.02	0.004	0.006	0.007	0.02	0.01	0.005	0.01	0.14	0.058	0.07	0.1
淀川	瀬田川	唐橋流心	7月29日	11月18日	8月2日	11月24日	64.9	76.8	74.4	87.8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.05	ND	ND
単位(μg/l)																						
水系名	河川名	調査地点名	採水日				採水時刻における流量 (m ³ S)				フタル酸-2-エチルヘキシル				フタル酸ブチルベンジル				フタル酸ジ-n-ブチル			
											H10前	H10後	H11夏	H11秋	H10前	H10後	H11夏	H11秋	H10前	H10後	H11夏	H11秋
													検出下限値→	[0.2]	[0.2]	[0.2]	[0.2]	[0.2]	[0.2]	[0.2]	[0.2]	[0.2]
										ランク値の範囲→	0	0.01	0	0	0	0	0	0	0.02	0	0	0
											↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	0	↓	↓	↓	↓
											0.76	0.36	0.20	0.24	0.04	0.07	0.01	0	0.26	0.37	0.32	0.32
淀川	瀬田川	唐橋流心	7月29日	11月18日	8月2日	11月24日	64.9	76.8	74.4		ND	ND	ND	0.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
単位(μg/l)																						
水系名	河川名	調査地点名	採水日				採水時刻における流量 (m ³ S)				アジピン酸ジ-n-2-エチルヘキシル				ビスフェノールA				17β-エストラジオール			
											H10前	H10後	H11夏	H11秋	H10前	H10後	H11夏	H11秋	H10前	H10後	H11夏	H11秋
													検出下限値→	[0.01]	[0.01]	[0.01]	[0.01]	[0.01]	[0.01]	[0.01]	[0.01]	[0.0002]
										ランク値の範囲→	0.002	0.003	0.001	0.001	0	0	0	0	3E-05	0	0	0
											↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
											0.02	0.013	0.013	0.011	0.06	0.025	0.009	0.008	0.0009	0.00075	0.00064	0.00064
淀川	瀬田川	唐橋流心	7月29日	11月18日	8月2日	11月24日	64.9	76.8	74.4		0.01	ND	ND	ND	0.10	0.01	0.08	ND	4E-04	6E-04	8E-04	6E-04
ND:不検出(検出下限値未満) ブランク値の範囲:精度管理における操作ブランク値の範囲																						

1.2 瀬田川における環境ホルモン物質



ダイオキシン類測定結果 (平成11年8月~10月)

調査地点	測定値
淀川水系琵琶湖-唐橋流心	0.097

※ダイオキシン類による水質の汚濁に係わる環境基準は
1pg-TEQ/l以下である。

[調査結果]

近畿管内の調査結果は、平均値0.10pg-TEQ/l、中央値0.085pg-TEQ/l、
検出範囲0.071~0.26pg-TEQ/lであり全国一斉調査の結果と比較して低い
レベルであった。

解説

pg(ピコグラム): 一兆分の一グラム

TEQ: 毒性等量(ダイオキシン類の各同族体の毒性を、2,3,7,8-TCDDに
換算して合計したもの)

2. 水質事故

2.1 瀬田川における水質事故の発生状況及び原因

【水質事故】

水質事故記録				
河川名	事故名	発生年月日	事故の概要	対策の概要
瀬田川	軽油流出	昭和52年5月3日	軽油160㍓	オイルフェンス・吸着板
	油流出	昭和54年6月29日	油膜	オイルフェンス・オイルマット等により処理
	軽油流出	昭和57年5月13日	軽油	中和剤・オイルマットにより処理
	油流出	平成9年10月22日	軽油	オイルフェンス設置・油の回収

※参考資料 日本河川水質年鑑
建設省河川局監修

2.2 水質事故の通報連絡体制

